

障害越え 夢の球音 特別支援学校、初の都大会



試合後、応援してくれた人たちに球場外であいさつする青鳥の選手ら＝10日、東京都八王子市のスリーポンドスタジアム八王子で（昆野夏子撮影）

知的障害のある生徒が通う東京都立青鳥特別支援学校（世田谷区）のベースボール部が10日、全国高校野球西東京大会に連合チームを組んで初出場し、スリーポンドスタジアム八王子（八王子市）で松原（世田谷区）と対戦した。特別支援学校の都大会参加は初めて。3時間13分の熱戦の末に19-23で敗れたが、観客からは全力プレーに大きな拍手が送られた。

世田谷区の松蔭大松蔭と都立深沢との連合チームは、青鳥から5人がベンチ入り。首藤理仁選手（2年）が7番右翼で先発出場し、四球で出塁後に敵失などの

「青鳥」連合チームで熱戦

間に本塁に生還した。代打で出場した山口大河主将（3年）は空振り三振に倒れたものの、試合後、「思い切りバットを振れた。やっぱり野球は楽しい」と笑顔を見せた。出場機会がなかった選手も、コーチボックスに立って腕を回したり、ベンチから大きな声を出したりしてチームを鼓舞した。

ともに戦った深沢の松本琉誠主将（3年）は「最初は、障害があると会話や野球ができるか不安だったが、練習や試合を通じて、野球に障害の有無はないと思った」と晴れやかな表情で語った。

青鳥の久保田浩司監督（57）は「選手たちは全力で頑張ってくれた。障害のある子が野球に挑戦しやすい環境をつくっていきたい」と前を向いた。（昆野夏子）